

駅前再開発 学生が研究発表

釧路公大で出前講座 道職員が講評

道が取り組む「北海道総合計画出前講座」が23日、釧路公立大学（白川欽哉学長）で開かれ、学生たちは講話や研究発表を通じて、北海道の明るい未来や釧路地域の発展について学びを深めた。（須貝喜治）

この日は、釧路市の定住人口維持のための政策について研究を進めている、東裕三准教授のゼミ生15人が出席。道職員が同計画や道が取り組む政策の概要説明などを行ったほか、学生がゼミで研究してきた成果の発表と道職員による講評が行われた。

研究発表では三つのグループが、「釧路地域における自然の活用と地域活性化」「釧路港が地域経済に与える影響」「駅前再開発脱シャッター街に向けた空き店舗の活用方法」というそれぞれのテーマで、釧路市の現状分析や地域活性化のアイデアなど、研究してきた成果を報告した。

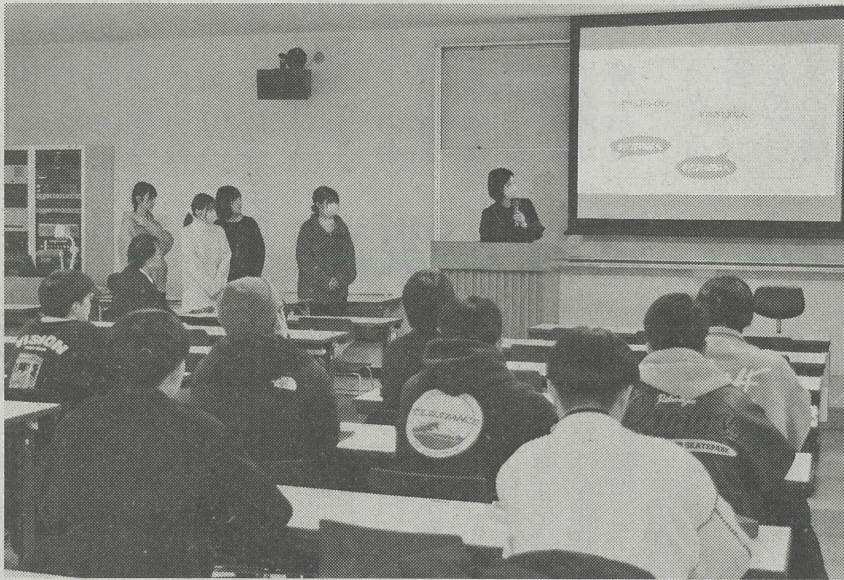
このうち、駅前再開発に

ついて発表したグループは、JR釧路駅周辺の課題

として、商店街の空き店舗増加と駅前の景観を指摘した。解決に向けて「空き店舗の活用による創業への意識改革や商店街を観光地化する景観の雰囲気づくりが重要」とし、他自治体の取

り組み事例などを紹介。さらに、空き店舗修繕に100億円を投入した場合、総合的な経済効果は117・1億円に上るという試算を発表した。

講座に参加した釧路総合振興局の村木大介地域創生部長は「経済分析をしっかりと行っており、とても具体的な内容だった。アイデアの提案もあったので、取り組みの方向性について話し合いができ、非常に有意義だった」と話していた。



釧路公立大で行われた出前講座